



藤沼英之が問う

LRT開業後のまちづくりについて

問 大関町長は祖母井中部・北部の土地区画整理事業の推進、下原・橋場地区の市街地調整区域での開発の推進を公約に掲げています。そこで、LRT開業後の第7次振興計画においての重点課題である住宅用地の整備の計画は具体的にどのように考えるのか。

答 町長 祖母井地区においては祖陽が丘住宅団地の商業施設用地を一般住宅用地に変更し再分譲を進めます。また旧町体育館跡地に関しても周辺も含めた一体的な土地利用計画を検討し、町負担軽減のために交付金事業の導入を考えているが場合によっては町単独の整備も検討します。

また下原地区においては計画作成、測量、調査を予定しており、橋場地区においても地区計画制度の活用などの検討を進めます。さらに一定のまとまりをもつ集落とされている城興寺、稲毛田地区などにおいても地区計画制度の活用を進めます。

芳賀町はLRT効果もあり、住宅用地の需要が高まっていますので、町としてもスピード感をもって取り組んでいきたいと考えています。

問 第7次振興計画において令和17年度の目標人口を15,000人と設定していることから移住、定住人口の増加が必要であり、高齢化率、定住促進事業と併せてどのように考えているのか。

答 町長 芳賀町は少子高齢化の中、平成28年度から7年連続で転入超過となり国勢調査においても人口減少がゆるやかに改善されるなど町の取り組みの成果はあらわれています。

令和17年度における国の将来推計人口では13,276人と設定しています。

目標人口15,000人の設定については基本的に住宅用地の整備などの住むところの創出、働くところの創出、子育て支援などを総合的に進めていくことで達成を目指します。人口の増加によって高齢化率も低下していくと考えられます。ちなみに過去5年間

の転入者の内訳は、45歳以下の転入者が約7割を占めていますので、高齢者を支える人口の増加も期待できます。

さらに人口増に効果があると考えられる定住促進補助金に関しても今後住宅需要への対応、子育て世代の支援などの施策と併せて改正を検討します。

問 道の駅はがの魅力度アップへの取り組みや課題は。

答 町長 道の駅はがは芳賀町の情報発信基地として各種イベントの充実や情報提供の強化、芳賀工業団地企業とのタイアップ事業も考えています。LRT開業後は入場者数、売り上げも約15%~20%程度伸びています。また、買い物に不便だとのアンケートの意見も踏まえて食肉センターとの連携や営業時間などについても検討を進めます。

課題としては建物本体、設備の老朽化、駐車場の不足、移動手段の不足などが考えられます。今後も道の駅はがはにぎわいの拠点として、機能の向上を指定管理者となる芳賀ロマン開発株式会社と共に取り組んでまいります。

問 LRTを中心とした路線バスやデマンド交通の見直しや計画、考えは。

答 町長 町では公共交通の軸となるLRTや公共路線バス、デマンド交通タクシーなどがつながる公共交通ネットワークへの構築を段階的に進めています。具体的にはバス路線の再編、デマンド交通の見直し、シェアサイクルの導入、新たな路線の実証実験などを行います。新たに組織する、公共交通利活用研究会において議論を重ね今後も利用状況を検証し住みやすい町となるように取り組みます。

こえ
聲

私のいいこと



岩崎 進さん
(上延生)

人にやさしく

海外ルーツの子どもたちが増えているそうです。芳賀町ではまだ少ないのかもしれませんが、海外労働者が多い市などでは、その子どもたちが、保育園などへ入る手続き一つでも生活習慣の違いから戸惑い、不便を感じ、中には、入園をあきらめるケースもあるといいます。申込書に加え、就労証明書、求職中の誓約書、利用者負担額等減免申請書など(芳賀町)。制度上仕方ないと言われたらそれまでですが、海外ルーツで言葉が不慣れな人たちがこれらの書類をそろえる苦労は、想像すれば理解できます。私の息子は小学生ですが、クラスに言葉に不慣れな子がいたら、教えてあげたり、一緒に行動したりできると思います。むしろ、大人たちよりも子どもたちの方が柔軟な気がします。いつから、日本の大人は、人を思いやるのが難しくなってしまったのでしょうか。



佐藤 年昭さん
(芳志戸)

子供たちのために

私は子育て世代の専業主婦です。他の市町に住むママ友と情報交換をする妻は「芳賀町は子育て支援が充実しているね。」と良く言っています。検診や出産費用をはじめ、産後の発育に関して保健師さんに大変お世話になって、子育てしやすい環境だと実感しています。

しかし不安もあります。以前、私がハウスで仕事をしていると、不審な車に声をかけられた中学生が助けを求めて来ました。幸い大事には至りませんでしたが、その子の心のダメージは計り知れません。私にも小学生の子供がおり、通学路の安全確保は重要だと思います。下校中の子供たちを見ていると、街灯はありますが心もとなく思えるので周囲に何も無い道は街灯の間隔を狭めるなど対策が必要だと感じます。子供達が安心して成長できる環境を整えることで、更なる町の発展に期待したいです。



阿久津 昌弘さん
(西高橋)

次の世代の子供たちのために

子供たちの未来に何が必要か。

大人になった私たちが今、新しい時代に向けて子供たちに残していけるものはなんでしょうか。エネルギー自給率12%、食料自給率38%、2030年38%の再生エネルギー、2050年カーボンニュートラル、オーガニック栽培25%具体的対策が、必要性が高まっています。新しい挑戦をする者、足の引っ張る政治であってははいけません。

生態系を含めて次の世代のために、新しい時代を考えることは大切なことではないでしょうか。